

長野式治療には多岐にわたる様々な症例が報告されている。
その中で今回は長野式を基盤とした小児鍼による治療例を挙げてみる。

○ 症例1 4歳 女児

乳児のころより咳、発熱が頻発し、入退院を幾度となく繰り返している。
現在は薬を服用しているがそれでも特に夜間から朝の咳、急な発熱が続く。
できれば小児であるので薬は控えたいということで来院。

<所見>

脈状・緊 数

天牖の圧痛

<施術>

- ・提鍼にて「照海」「支溝」「尺沢」に雀啄様に刺激し、天牖の圧痛を消失。
- ・ローラー鍼にて陽明経をさすり、胃の気および気流促進。
- ・集毛鍼にて「身柱」「大椎」周辺を雀啄様刺激する。

施術当日より発熱、夜間の咳き込みは消失する。

運動時に少々の咳が出るので1週間に1回の割合で継続。

施術が気持ちいいらしく、来院日を毎回楽しみにしているという。

○ 症例2 6歳 女児

2か月前に糸球体腎炎で入院。現在は熱も下がり退院してきたが、尿にタンパクがまだ下りるので1年間、運動を禁止されている。頸から頭が時々痛む。小さいときにベッドから落ちたことがあったがそれが原因と思うとのこと。

<所見>

脈状・緊 やや数

頸部の筋緊張が顕著

天牖の圧痛

右然谷の圧痛

<施術>

- ・提鍼にて「復溜」右「陰谷」「尺沢」「天牖」に雀啄様刺激。
天牖、然谷の圧痛消失。
- ・ローラー鍼にて陽明経をさすり、胃の気および気流促進。
- ・集毛鍼にて「身柱」「大椎」周辺を雀啄様刺激する。

施術後、頸が軽くなり「気持ちいい」。

夜がよく眠れるようになった。

2回目(10日後)

然谷の圧痛なし。頸部も緩んでいる。頭痛なし。

施術は右「陰谷」をはずしてあとは同様。

4回目(33日後)

タンパクは下りなくなり、運動が解禁された。

足のむくみが取れて靴のサイズが緩くなった。

頭痛は鍼をはじめてから一度も発症せず。

ほぼ治癒とする。

その後も健康管理のために、定期的な施術を継続。

○まとめ

2例とも長野式を基盤とした小児治療であるが、
使用したのは「提鍼」「ローラー鍼」「集毛鍼」の3種類である。

特に「提鍼」「集毛鍼」では、雀啄様刺激を施すことにポイントを置く。

この雀啄様刺激とは、丹念に気を送り込み効かせてゆく長野式雀啄術の応用である。

手技の技能を身に着けてゆくと刺鍼でも、接触鍼でも、小児鍼であっても
何の遜色もなく治療効果を発揮することができるようになってくる。

ぜひともセミナーで実際の長野先生や講師陣の手技に注意して体得していただきたい
と思う。

今回の私の雀啄様刺激の手技も文字ではうまく伝えられないのでセミナー等で確認
していただきたい。